

## 生活保護診療報酬明細書(レセプト)点検業務委託仕様書

1. 委託業務名 生活保護診療報酬明細書(レセプト)点検業務委託
2. 委託期間 契約日から令和7年3月31日
3. 委託業務の実施場所 奈良県葛城市柿本166(葛城市役所新庄庁舎社会福祉課内)
4. 業務の目的 生活保護診療報酬明細書及び調剤報酬明細書(以下「レセプト」という)の点検を行うことにより、生活保護法による医療扶助費の適正な支出を図ることを目的とする。

### 5. 業務内容

#### (1) 電子レセプトの単月及び縦覧点検業務(点検は3ヶ月に一度実施)

① 単月点検について、医科、歯科、調剤及び訪問看護レセプトの単月分を対象とすること。点検に当たっては下記内容に留意の上実施すること。

- (ア) 縦計・横計の検算
- (イ) 算定についての関連(診療開始日、初診、在宅欄、退院日等)
- (ウ) 検査に係る算定の妥当性
- (エ) 各種指導料、各種管理料の算定回数及び算定の妥当性
- (オ) 各種処置、検査、注射回数の妥当性
- (カ) 診療内容の傷病名に対する妥当性
- (キ) 特別食と傷病名との関連
- (ク) 長期に及ぶ投薬の妥当性
- (ケ) 各種薬剤の傷病名との適応及び投与日数、回数の妥当性
- (コ) 調剤における調剤料の誤り
- (サ) 調剤レセプトに対する医科及び歯科レセプトの突合による傷病名との適応及び投与日数、投与回数の妥当性
- (シ) 訪問看護レセプトに対する医科レセプトの突合による傷病名との適応及び各種算定の妥当性
- (ス) その他請求内容の妥当性

② 縦覧点検について、医科、歯科、調剤及び訪問看護レセプトを対象とすること。

点検に当たっては、下記内容に留意するとともに複数の医療保険受診など複数のレセプトを突合、確認するなど効率のよい点検をすること。

- (ア) 重複請求、同一医療機関の重複検査等
- (イ) 連月での初診料算定の可否
- (ウ) 注射での長期にわたる施行
- (エ) 規定されている手術の妥当性

- (オ) 特殊検査の連日施行の妥当性
- (カ) 連月でのレントゲン施行の妥当性
- (キ) CT、MRI 撮影の連月施行の妥当性
- (ク) 連月でのルーチン検査の妥当性
- (ケ) リハビリテーションの施行期間の妥当性
- (コ) 新入院、継続入院の妥当性
- (サ) 頓服、外用薬の投与量
- (シ) 投薬日数の上限が規定されている薬剤の妥当性
- (ス) 投薬での抗生剤等長期にわたる漫然たる投与
- (セ) その他請求内容の妥当性

- ③単月点検及び縦覧点検の結果、支払基金への再審査請求となる電子レセプトについて、レセプト管理システムに再審査申出理由登録を行うこと。
- ④再審査申し出を行ったレセプトを原紙印刷し、その後付箋を貼り付けること。
- ⑤毎月業務終了後、「レセプト単月・縦覧点検委託結果報告書」を提出すること。

(2) 重複・頻回受診者、向精神薬多用者、休日・深夜受診者の抽出（半年に1回）

- ①レセプト点検実施時に重複して病院を受診している人、一ヶ月の受診日数が多い人を抽出する。
- ②向精神薬の服用者のレセプトを点検し、過剰な投与を受けていないか、重複受診をしていないかを確認する。
- ③なお上記の抽出はレセプト管理システムを用いて行うことが可能だが、単にシステム抽出した全てを提出するのではなく、実際にケースワーカーや嘱託医師による医療上の指導が必要かどうかを確認した上でレセプトと共に担当者に提出すること。

(3) 重症化予防等の健康管理支援対象者の抽出（半年に1回）

糖尿病により医療機関を受診している人に対し、ケースワーカーが重症化予防のために指導する対象者の抽出を行う。

(4) 第三者行為疑い該当レセプトの抽出（半年に1回）

第三者行為の可能性のあるレセプトを抽出する。

(5) ジェネリック医薬品に変更可能な人を抽出する業務（半年に1回）

①通知対象者の抽出

支払基金から毎月提供される被保険者の薬剤処方データ、またはレセプト管理システムを活用して差額通知を行う。差額通知を行う対象者は、生活習慣病（糖尿

病、高血圧症、脂質異常症)と定期的に投薬を受けている人(下記参照(ア)～(カ))で投薬を受けている人とする。

- (ア) 循環器系の病気・・・狭心症、心筋梗塞、慢性心不全、不整脈、脳梗塞、慢性閉塞性動脈硬化症
- (イ) 呼吸器系の病気・・・慢性気管支炎、肺気腫、気管支喘息
- (ウ) 消化器系の病気・・・胃・十二指腸潰瘍、慢性胃炎、肝硬変、肝炎、慢性膵炎
- (エ) 皮膚疾患の病気・・・アトピー性皮膚炎
- (オ) 筋骨格系の病気・・・慢性関節リウマチ、痛風、骨粗しょう症
- (カ) 尿路系の病気・・・慢性腎不全、前立腺肥大症、高尿酸血症など

上記(ア)～(カ)で抽出した対象データをもとに、ジェネリック医薬品に変更出来る人のリストを作成する。ただし、がん関連・精神疾患関連・重篤な症状など通知することが不適当と思われる人については除外すること。システムの除外するのではなく、医療知識のある作業員が実際に直近のレセプトの病名を見て除外すること。

### ②後発医薬品（ジェネリック医薬品）データベースの更新

新たに認可された新薬、後発医薬品があるので、その情報をデータベースに反映させ差額通知発送時には最新の状態で処理を行うものとする。

### ③業務の作業場所

市役所内の指定した場所。個人の住所、レセプトデータ等個人情報を含んだデータを多数委託して作業をすることになるので、庁内からの持ち出しての作業は禁止する。

## 6 その他

この仕様書に定めのない事項又はこの仕様に疑義が生じた場合は、必要に応じ甲と乙で協議し、協議において決定した事項は、この仕様書と同等の効力を持つものとする。

## 7 委託業者について

レセプトという個人情報を扱い、なおかつそれが電子情報である関係上、容易に持ち出されたり悪用されたりする可能性があるため、委託業者はプライバシーマークもしくは ISMS の認定を受けていること。

8	予定点検枚数		
	1ヶ月	医科	約 500 枚